

平成23年度武雄市財務書類(普通会計)

※総務省基準モデルによる作成

貸借対照表(バランスシート)

普通会計(一般会計と土地区画整理事業特別会計の合計)で所有する現金や債権、資産形成のために投資された資金等がどのくらいあるかを示したもので、資産・負債・純資産の3つの要素から構成されています。

<p>資産 790億4150万円</p> <p>普通会計ベースでの市の所有資産の内容と金額です。行政サービスの提供能力を表しています。</p> <p>【内訳】</p> <p>1. 金融資産 162億7007万円</p> <p>(1) 資金 13億8058万円</p> <p>(2)未収金 8億4698万円 (3)貸付金 3億7172万円 (4)その他債権 - (5)貸倒引当金 -5135万円 (6)有価証券 27万円 (7)出資金 38億0252万円 (8)基金・積立金 97億9638万円 (9)その他の投資 1億2298万円</p> <p>2. 非金融資産 627億7143万円</p> <p>(1)事業用資産 303億8416万円 (2)インフラ資産 323億8727万円 (3)繰延資産 -</p>	<p>負債 282億7021万円</p> <p>普通会計ベースでの借入金や将来の職員の退職金など、将来世代が負担する債務です。</p> <p>【内訳】</p> <p>1. 流動負債 27億9122万円</p> <p>(1)地方債(短期) 22億0934万円 (2)賞与引当金 1億7057万円 (3)その他 4億1131万円</p> <p>2. 非流動負債 254億7899万円</p> <p>(1)地方債 218億3148万円 (2)退職給与引当金 36億4752万円 (3)その他 -</p>
<p>純資産 507億7129万円</p> <p>現在までの世代が負担した金額で、正味の資産です。</p>	
<p>(資産) = (負債) + (純資産)</p> <p>= 790億4150万円</p>	

市民一人あたりの資産・負債

資産	155万円	負債	55万円
うち公共資産	123万円	純資産	100万円

資金収支計算書

1年間の現金の収入(歳入)と支出(歳出)が、どのような理由で増減しているかを、性質別に区分して整理したものです。

期首(22年度末)資金残高	15億1174万円
当期資金収支額	-1億3117万円
【内訳】	
定期的収支(a)	33億0622万円
資本的収支(b)	-29億4063万円
基礎的財政収支(a+b)	3億6558万円
財務的収支	-4億9675万円
期末(23年度末)資金残高	13億8058万円

純資産変動計算書

1年間の純資産(正味の財産)がどのように増減したかを示しています。

期首(22年度末)純資産残高	505億4948万円
当期純資産変動額	2億2180万円
【内訳】	
純行政コスト	-168億0038万円
財源の調達	212億8323万円
税金、国や県からの補助金等	
その他	-42億6105万円
公共施設整備・インフラ資産の資本減耗等	
期末(23年度末)純資産残高	507億7129万円

行政コスト計算書

1年間の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料・保険料などの収入を示すものです。従来の官公庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。

総行政コスト(A)	180億8302万円
【内訳】	
1. 人件費 36億7835万円	職員の給与、退職手当等
2. 物件費・経費 44億1503万円	消耗品費、維持補修費、減価償却費等
3. 業務関連経費 5億9149万円	公債費等
4. 移転支出 93億9816万円	他団体への補助金等

経常収益(B)	12億8264万円
行政サービスの利用で市民の皆さんが直接負担する施設使用料、手数料、保険料等です。	

純行政コスト	168億0038万円
総行政コスト(A) - 経常収益(B) 純粋な行政コストです。	

市民一人あたりの行政コスト

総行政コスト	35万円
経常収益	3万円
純行政コスト	33万円

※人口は、平成24年3月31日住民基本台帳人口： 51,008 人

※端数処理により各項目の金額と内訳の合計額が一致しない場合があります。

平成23年度武雄市財務書類(単体会計)

※総務省基準モデルによる作成

貸借対照表(バランスシート)

普通会計、特別会計及び企業会計をひとつの行政サービス実施主体(単体)とみなして市全体の所有する現金や債権、資産形成のために投資された資金等がどのくらいあるかを示したもので、資産・負債・純資産の3つの要素から構成されています。

資産 1160億8213万円		負債 440億0197万円	
単体ベースでの市の所有資産の内容と金額です。行政サービスの提供能力を表しています。		単体ベースでの借入金や将来の職員の退職金など、将来世代が負担する債務です。	
【内訳】		【内訳】	
1. 金融資産 194億0646万円		1. 流動負債 37億4673万円	
(1) 資金 21億5466万円		(1) 地方債(短期) 26億1691万円	
(2) 未収金 13億7992万円		(2) 賞与引当金 1億8095万円	
(3) 貸付金 8億7172万円		(3) その他 9億4888万円	
(4) その他債権 -			
(5) 貸倒引当金 -1億1226万円		2. 非流動負債 402億5524万円	
(6) 有価証券 27万円		(1) 地方債 366億0772万円	
(7) 出資金 43億0212万円		(2) 退職給与引当金 36億4752万円	
(8) 基金・積立金 106億8706万円		(3) その他 -	
(9) その他の投資 1億2298万円			
2. 非金融資産 966億7566万円			
(1) 事業用資産 376億8599万円			
(2) インフラ資産 589億8968万円			
(3) 繰延資産 -			
		純資産 720億8015万円	
		現在までの世代が負担した金額で、正味の資産です。	
		(資産)=(負債)+(純資産)	
		= 1160億8213万円	

市民一人あたりの資産・負債

資産	228万円	負債	86万円
うち公共資産	190万円	純資産	141万円

資金収支計算書

1年間の市全体の現金の収入(歳入)と支出(歳出)が、どのような理由で増減しているかを、性質別に区分して整理したものです。

期首(22年度末)資金残高	22億3622万円
当期資金収支額	-8156万円
【内訳】	
経常的収支(a)	46億4169万円
資本的収支(b)	-45億5439万円
基礎的財政収支(a+b)	8730万円
財務的収支	-1億6886万円
期末(23年度末)資金残高	21億5466万円

純資産変動計算書

1年間の市全体の純資産(正味の財産)がどのように増減したかを示しています。

期首(22年度末)純資産残高	714億3813万円
当期純資産変動額	6億4202万円
【内訳】	
純行政コスト	-223億7185万円
財源の調達	286億1739万円
税収、国や県からの補助金等	
その他	-56億0352万円
公共施設整備・インフラ資産の資本減耗等	
期末(23年度末)純資産残高	720億8015万円

行政コスト計算書

1年間の市全体の経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料・保険料などの収入を示すものです。従来の官公庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。

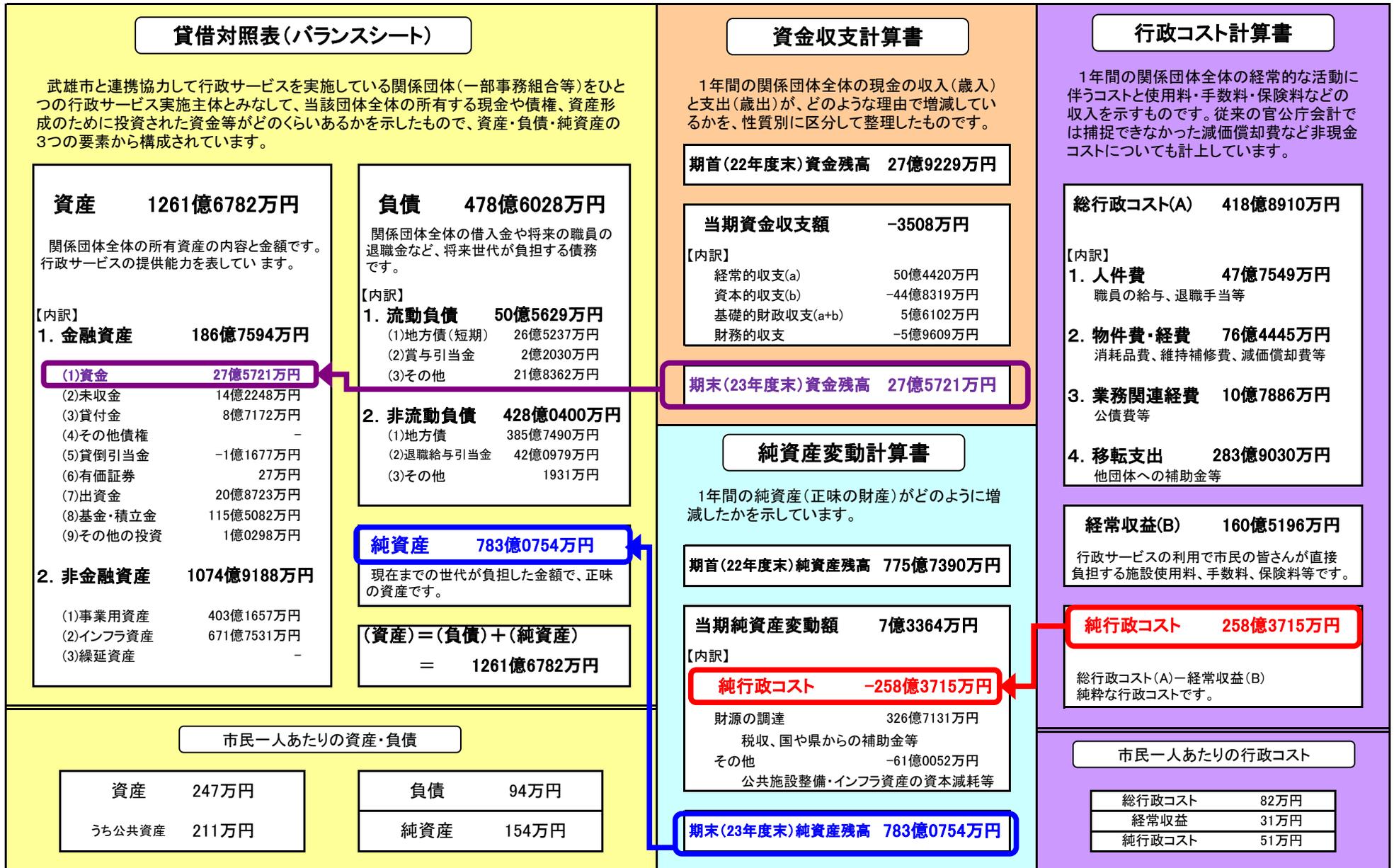
総行政コスト(A)	362億6680万円
【内訳】	
1. 人件費 40億3821万円	
職員の給与、退職手当等	
2. 物件費・経費 68億5740万円	
消耗品費、維持補修費、減価償却費等	
3. 業務関連経費 9億8113万円	
公債費等	
4. 移転支出 243億9006万円	
他団体への補助金等	
経常収益(B)	138億9495万円
行政サービスの利用で市民の皆さんが直接負担する施設使用料、手数料、保険料等です。	
純行政コスト 223億7185万円	
総行政コスト(A)－経常収益(B) 純粋な行政コストです。	
市民一人あたりの行政コスト	
総行政コスト	71万円
経常収益	27万円
純行政コスト	44万円

※人口は、平成24年3月31日住民基本台帳人口： 51,008 人

※端数処理により各項目の金額と内訳の合計額が一致しない場合があります。

平成23年度武雄市財務書類(連結会計)

※総務省基準モデルによる作成



※人口は、平成24年3月31日住民基本台帳人口： 51,008 人

※端数処理により各項目の金額と内訳の合計額が一致しない場合があります。